



狂訓真主人著

一卷一集
教妙別傳

心學
捷徑
大學笑句全

一筆菴主人書
英文藏版



師のこまの醉客のこま乃のこまお溝のこま邊のこまをのこま。園のこま中のこまものこまかのこま大のこま學のこまの
 刊のこま点のこまをのこま。轉のこま傳のこましのこまてのこま。則のこま是のこまをのこま。評のこま
 自のこま身のこまものこま不のこま解のこま。章のこま句のこまとのこま思のこまはのこま。則のこま是のこまをのこま。評のこま
 注のこまをのこま。糲のこま糟のこま加のこまえてのこま。特のこま俗のこまののこま。混のこま雜のこまさのこまうのこまをのこまて
 本のこま文のこまものこま通のこまりのこま。語のこま路のこまののこま。喜のこまののこま。笑のこま白のこま也のこま。滑のこま稽のこま
 三のこま馬のこまののこま。室のこまをのこま。亦のこま十のこま返のこま。舍のこまののこま。あのこまづのこまつのこま。室のこま文のこま
 鳴のこま乎のこま。出のこまいのこま。古のこま人のこま

兩のこま先のこま生のこまののこま。名のこまにのこま。はのこま。しのこま。てのこま。流のこま行のこまるのこま。あのこまりのこま。決のこまて
 後のこま世のこま。殊のこまものこま。得のこま字のこまとのこま。假のこま名のこま。ちのこま。びのこま。でのこま。一のこま。家のこまの
 口のこま。調のこま。をのこま。知のこま。しのこま。僕のこま。あのこま。りのこま。くのこま。兒のこま。女のこま。ののこま。名のこま。をのこま。小のこま。く。
 教のこま。訓のこま。をのこま。いのこま。ふのこま。るのこま。かのこま。らのこま。ぬのこま。とのこま。讀のこま。むのこま。るのこま。の
 傳のこま。習のこま。心のこま。をのこま。偏のこま。にのこま。笑のこま。覧のこま。をのこま。願のこま。ふのこま。るのこま。事のこま。也のこま。

狂のこま。訓のこま。亭のこま。主人のこま。漫のこま。戲のこま。ののこま。



大樂之教
 救苦之要

此の書は、
 衆生の苦を救ふ
 爲めに書かれたる
 要訣の書なり

此の書は、
 衆生の苦を救ふ
 爲めに書かれたる
 要訣の書なり

苦の樂の元金

たゞの金
 はのり
 火の
 乃の
 乃の
 乃の



大學
 捷徑

評註

私記私欲



御亭主曰 勦略巧者 意味鬼角 徳
 入門於今 主人徳取 世帯可持 者
 獨此金不為損 依而厘毛 是積勝
 手必依之 詰則不迷 近

右の如く勤略しての如くは、
 其の勤略道米穀不為麈末有金大事
 有為於金錢止有留事知而後有
 已待已待有而後庚申庚申有而
 後有甲子甲子有而後欲得

米味保一 目もろくてもうらぬのめれは、
 其の勤略道米穀不為麈末有金大事
 有為於金錢止有留事知而後有
 已待已待有而後庚申庚申有而
 後有甲子甲子有而後欲得

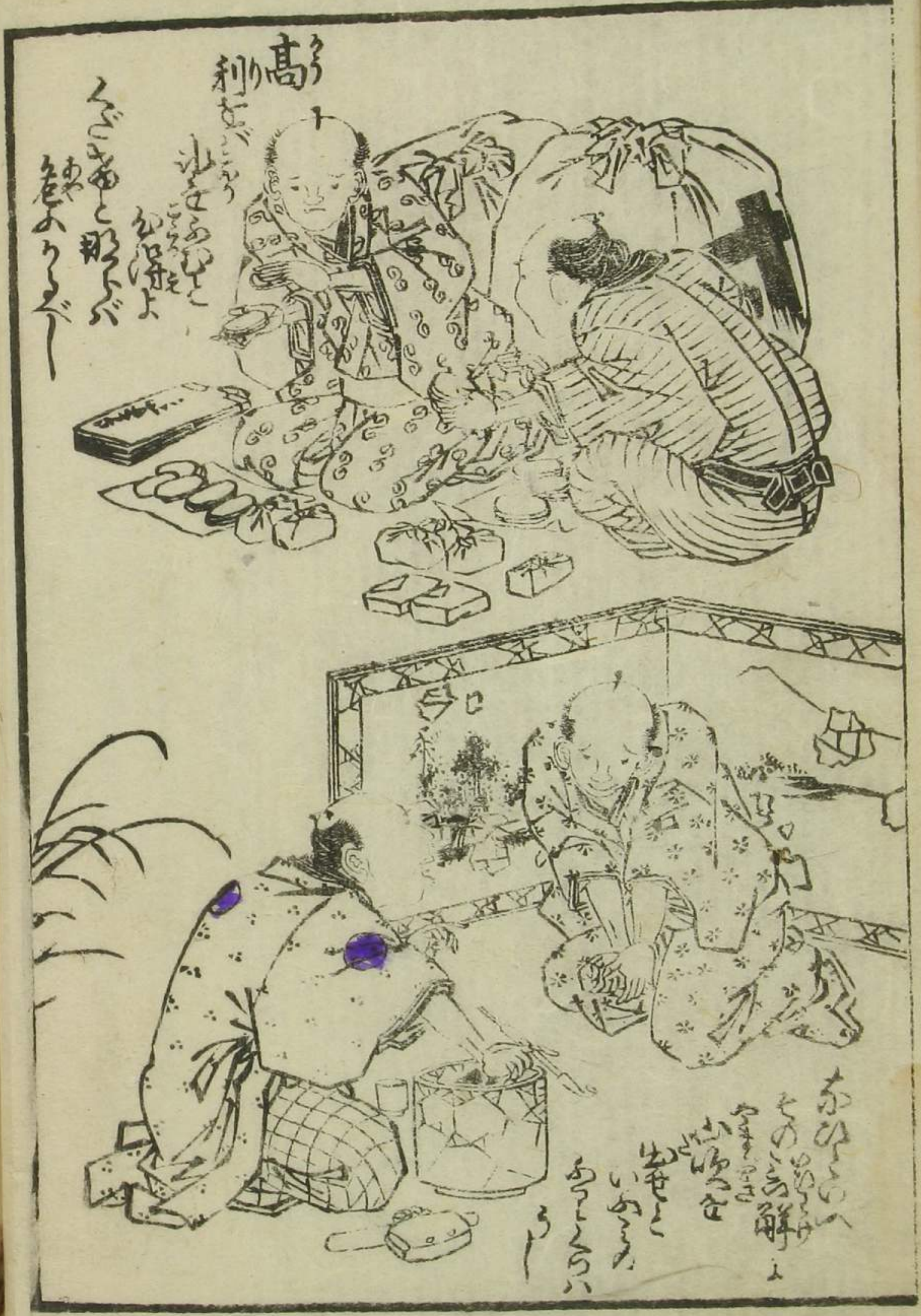
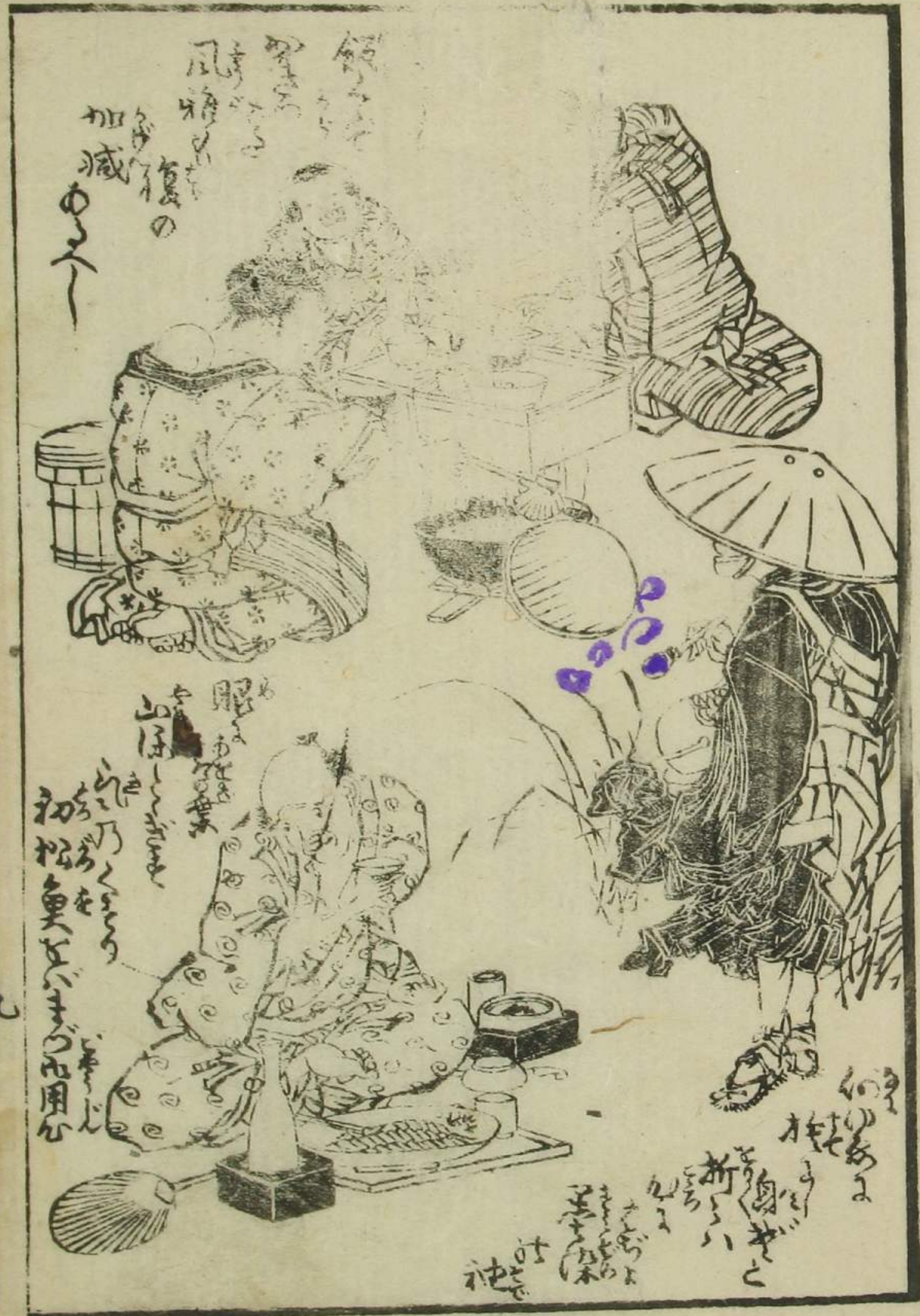
物 儉約有事質素有線香計成時

則德近（徳の近き）
 右損徳為細欲者先其金惜其金（右に徳を損ふは細く欲する者先其金を惜む其金を）
 惜欲者先其家宅調其宅地為調（惜む欲する者先其家宅を調其宅地を調）
 欲者先其身詰其身詰欲者先其（欲する者先其身を詰其身を詰欲する者先其）
 心為約其心約欲者必先其志事（心為約其心を約欲する者必先其志事）
 為止其志事止欲者先其費止費（為止其志事止欲する者先其費を止費）

止者物不出有

（そのまゝに物を出さず止むるは其の志事先其費を止むるに在り）
（止むるは其の志事先其費を止むるに在り）

金尊金箱有澤山有金箱多而利（金尊金箱有澤山有金箱多而利）
 納利納而金集金集而遺事大切也（納利納而金集金集而遺事大切也）



亭主其儉不用無云事

金がゆきつゝのりも調法をきく世に依りて金持の眼お入用の
家財計具をやくる買入金の多きものあり金持の眼お入用の
ものもまづくと不買中をきく金の多きものあり金持の眼お入用の
甘ねの人の老角金をあかして買入るもの多きものあり金持の眼お入用の

私曰多分金利惟公听止

多分の公の法度のこといざしやのべんがもあつた利のたやま
やうきとて王法のとびくの罪を録みまを災ひのりりと

あゝ
べー

私曰看板弁舌止賢愚

見せのの看板や口上の言とて味も才智もいざしやのべん

仕曰其听止人足不止鳥可鹿猿

折角口上の人足を止ても見せのものがあつてさふ海判を
知らうとてさういふをいふ名もやなや猿を見せうとて

志曰櫓櫓木魚朝起止門戸

一家有錢一門賴無盡一家意地
理合一國興肝癘一人有督禮一
門作禮其氣如此此謂一言大事
一人定工面

私曰物要用其夜深更布子別温

宜其寒氣宜寒氣而后可惜子
足袋

Handwritten notes in cursive script, likely explaining the main text.

志曰樂哉金主他人父母他人好

呀是不好他人惡呀是惡是他人踏也云

他人の悪は他人の徳のたたり父母のおと他人の徳の野

志曰節成哉賣居礎巖々零落看
倒来損事看云保家約不為人不

可有捨則卞和為玉

節成りたるは時節なり玉も石の中にもあり玉は石の中にもあり

志曰家未亡能上米喰且貪鑑身
命不易云心為徳無損為損為

徳

此故亭主先貪慎儉是德有德是
有利有利是財有財是為用

儉德也利平也
儉者利之平也

外本内外多味集施喰

外本内外多味集施喰

此故財散多味集多呆集財散

此故財散多味集多呆集財散

此故米上拂時亦下安米下拂時
又上無損此故於出精大法有出

精者多是喰者少米當滿

精者多是喰者少米當滿

我これとせむ不りせめて為り利とせむ以り利とせむ不り成り一つ家け長のち金ち錢て
借く者もの必はら證う文ま立た其その證う文ま立た借く證う文ま
並あ出い儉けん者や雖あ有ら如い何ん無も為す事こと是こ先ゝ
利り出し利り元もと多く云ふ

此は本支のて大略をさすべしなり
借證文がいふは
分敷のちこもさくこもなるここのふ
おのこもさする家ま
さすば換りかをも第一まよりあらはまをよしく

長ちやう俗よく家け而して務む業ぎやう用よう者者必はら自みづか信しん心こころ使は
不せ為む信しん心こころ俗よく家け納のう災さい害がい並あ至いた雖あ有ら
錢ぜ者もの亦また無も如い之の何ん此こ謂い俗よく不せ以は義ぎ
為す義ぎ以は利り為す義ぎ也なり

俗人 家業をつつめるの神はを信公してちんをせむがゆ
へーまらげのまらるるれお場をさすれ

悪人でもくても身が勝手

他人の難儀を知らぬ者

納 農六納多う貢を納うがもとの知得あり

駈込の入りはふらさつるきりて全上船よせ船より出でて農家の
女房より小奮真あがりうげ極ま安ひがみの商人を極く申入るひせ
馬入十う百も買を塩押おはるせしナ明日まで雨でも降と畑へ送入
まるといふ二三日青物ア申ませせ女房より「やまも雨降らうらうら
ましくなるひをお言ひでもひヨ今年のお米は極く少なりナ

雨降らうらうら

安んじさうらわら

白の紙一海

お茶をもう天を

ゆんばいさうら

田舎の者お茶を

のこま田畑が張まで

稲が紙細工もアめり



業（業） 工ハ業あり業を勵（業）が働（業）一あるべし
 日（日）が長くて急（急）屈（屈）道（道）具（具）を研（研）でも烟（烟）草（草）と吞（吞）て
 由（由）仕（仕）業（業）が出來（來）るてあ（あ）ら（ら）あ（あ）ひ何（何）事（事）割（割）の能（能）昔（昔）法（法）をうけ
 取（取）て十（十）分（分）金（金）ま（ま）あ（あ）けと仕（仕）業（業）の（の）ご年（年）中（中）同（同）じ（じ）の（の）む（む）ら（ら）り
 て居（居）てハ面（面）白（白）くあ（あ）ひ唐（唐）土（土）天（天）竺（竺）日（日）本（本）が（が）一（一）時（時）ふ昔（昔）法（法）が（が）む（む）ら（ら）り
 年（年）の（の）職（職）人（人）が（が）引（引）ち（ち）り不（不）足（足）れ（れ）ふあ（あ）き（き）ハ能（能）例（例）時（時）相（相）う（う）ら（ら）ぬ
 細（細）工（工）ハ精（精）と出（出）産（産）年（年）が（が）あ（あ）ひ何（何）年（年）と（と）聞（聞）ぐ（ぐ）とあ（あ）つて工（工）
 師（師）なるが（が）一日（日）ふ十（十）人（人）殺（殺）つ取（取）交（交）りの（の）じ（じ）

太平の民ハ太平の術（術）徳（徳）を（を）知（知）ら（ら）ぬ
 古（古）人（人）の金（金）言（言）あり相（相）愛（愛）下（下）ぎ（ぎ）と
 平（平）生（生）の積（積）の（の）む（む）ら（ら）り（り）可（可）も（も）な（な）く
 承（承）可（可）も（も）多（多）天（天）竺（竺）の情（情）預（預）あり常（常）の
 ぶ（ぶ）く（く）並（並）の（の）ど（ど）く（く）あ（あ）ら（ら）有（有）ぐ（ぐ）た（た）事（事）な（な）ら（ら）ず
 凡（凡）事（事）の用（用）む（む）と（と）た（た）れ（れ）せ用（用）の（の）ふ（ふ）ら（ら）異（異）な（な）ら（ら）ず（ず）て同（同）出（出）度（度）



と
 子友人琴通舎英賀が或人の火の袋束の陣の
 袋へ越す不哥反縁て吳ヨと頼一晴琴通舎が即席ふよ
 たる怪奇

ひびとよびと出ぬ花の隣を

うらむるりのさくせりぞー

笑 商の笑なり笑顔の電紋が要まるぞー

商賣の利回ふよと身上益多るが町家の常なれば利回
 たらへ懐心へさるるらねども高利を貪賞メなるとさるら

甚しき罪人のぞうま當をへ

叙目されども子孫の叙を承

笑してさ強欲非道小念身て

取てさる家のまへ天罰せ

國空窮さるる家名を久く

相續しても血脉は終て何時

あり他人の物とありて長人の

家のわらぶもむ板當時の



ありのふ校目なき商人の安賣新店の御覽せしは随分
 実意の賣物の吟味念入は兼略なく又と審判の丹
 誠を評判よりしく蟹目と流形出しうる高ひ店を「推
 小傷と二七野良の不毛相も商賣を不般目する店の
 多くわきど主人も審判も代物よ念を入れて安賣をなさるが
 自慚ふのゆゑ店の賣人の善悪小公付するものなれば
 果せぬ中野をささぐらむ且那の突産赤小をうり「行
 番ひの帳合を丸を入るをささぐら「備きも代の小用也

て見せが每人ふあるふがあれが自然に買人と兼畧小
 たる身あり小傷がふらうの甲を「ア引開しひるふこはれよ
 お客が續ひて来てハ親方が今年でも存心人難長ど
 買人をば「村下「出て来ぬ也小仕交ぬと「朝ハ早く買人
 が来る夜ハ「驚る時を絶る事小買小来るよハ「飾りお
 るこ「遠程開し「家と知らるる「多ふ来ちひりのヲ
 今小着流が見せぬ物ると「務の仲「隠きて一眠入たるぞ
 それハ命がけらあひり「又買人が来るをぬごまことお

うのせし

ト言ふは、今奥の方より出ある、侍 僂軍の侍

ひらひ

「アヤ吉さん、些見世も居り、先刻より、侍 け身も、

國のまゝを居、侍 今、侍 物を出し、侍 今、

用が、侍 アト、言中、侍 買物、侍 一人、侍 急ぐ、侍 白、

眼鏡も、侍 あり、侍 面、侍 文、

と、侍 残、侍 用、侍 文、

賣物を投出して、侍 買人の腹を、侍 憐れ、侍 顔

見せ、侍 再、侍 買、侍 言、侍 顔

と、侍 悔、侍 詮、侍 方、侍 体、

と、侍 見、侍 用、

と、侍 見、侍 代、

と、侍 天、

と、侍 見、侍 言、侍 言、

と、侍 悔、侍 腹、侍 商、侍 言、

筆にても号しつた不法より主人の番取が帳場小居
 多の客の挨拶もせぬ小僧が諸所の商の見世多
 りて実人の立腹もろり絶も殊小用しく般馬の店
 ちりれば小僧の悪まが如いぬものなり終用分
 。丁指も能同
 盗巻をまると答ゆるも罪多
 主の得意奴末も奴
 士農工商心得草終



天下 登龍丸 針物一切 一包 代百文
 一方 巡代六百平文

此丸は天下の秘法にて... 巡代六百平文... 針物一切 一包 代百文...

病延命する者数万人用ひ試て生功の本ある者古今を叙
希代不忠儀の好業之中功先小者好

一 十年世年喘息 一 勞志の候 一 引風の候

一 一からせさ 一 咽喉せりつゝ 一 痰咳を治す候

一 痔小血交り 一 痔飲止すも交り 一 効氣はく心仲

一 小児百日咳 一 婦人産後の候 一 為飲少く胸痛

一 為飲少く乳室より 一 此外痔瘻為飲より 一 起る瘧一切小はし

一 著者考へてはく久村く用ひたるは考へて三つあり好むあり
一 拆瘻候の業首より法の本物中毛多く黄業中も所小者て

一 此れ此痔瘻候の業首より法の本物中毛多く黄業中も所小者て
一 年久しき痔瘻為飲少く医藤子とほく百業紙利あり
一 治ぐん此程飛少くも迷小治を業紙利あり
一 秘して試ふ小止して治せざる分は依て大个無敵の正業
一 少く他小治は志はるがら生功練述なることあり
一 業紙利あり婦人産後の候小病ひ害なきことあり
一 用ひく効あり法あり紙利あり一 志外く小治業紙利あり
一 此等包紙小治候味く之小治元次所考へて求て小治



東叡山御書物所

江戸下谷御成道 青雲堂英文藏製

| | | |
|---------|------|------|
| 東叡山御書物所 | 出書物 | 大正次 |
| 大板屋敷 | 河内屋敷 | 大板屋敷 |
| 後府江川町 | 山本屋敷 | 和名屋敷 |
| 伊勢板屋敷 | 道具屋敷 | 後板屋敷 |
| 新所橋 | 大内屋敷 | 小井屋敷 |
| 中屋敷 | 中屋敷 | 住屋敷 |
| 赤屋敷 | 仲屋敷 | 赤屋敷 |
| 長谷屋敷 | 山本屋敷 | 紅屋敷 |
| 内大工町 | 玉屋敷 | 堀屋敷 |
| 日越町 | 南屋敷 | 鶴屋敷 |
| 伊勢屋敷 | 伊勢屋敷 | 伊勢屋敷 |
| 日越町 | 伊勢屋敷 | 伊勢屋敷 |

力子

